

# 「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里第一小学校】

平成29年4月18日(火)に、小学校第6学年全児童を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）と本校児童の状況

### (1) 教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	B
算数A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

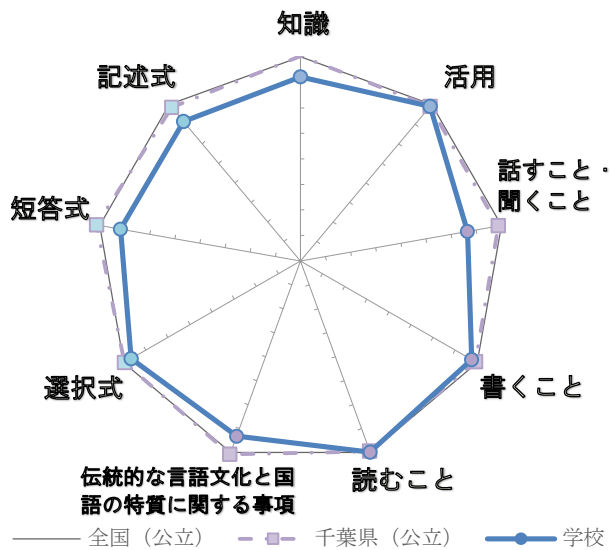
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

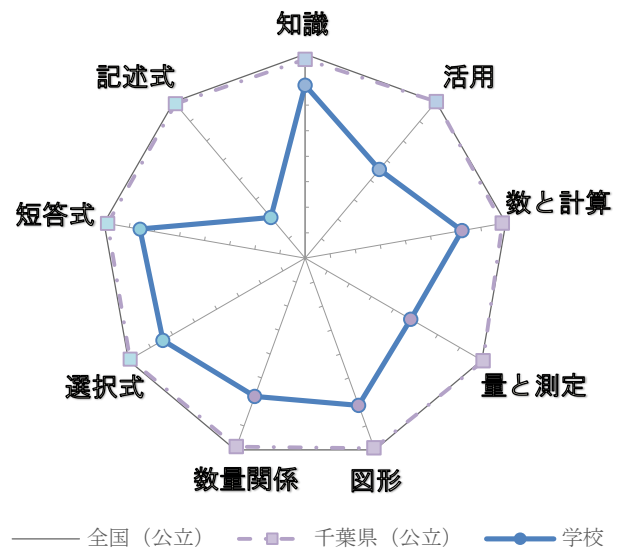
C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) レーダーチャート

<国語>



<算数>



## 3 結果分析

### (1) 学習面について

- ・国語では、A問題において全国平均よりやや下回るものの、B問題においてはほぼ全国平均に近い結果が得られました。
- ・算数科においては、A問題、B問題ともに、全体的に正答率が下回りました。また、A問題の知識理解と比較すると、B問題の「活用」に関する正答率の方が低い傾向がみられました。
- ・記述式の問題については、国語では正答率が高かったものの、算数の正答率は特に低くなっていました。筋道を立てて論理的に考え、表現する力の向上が求められます。

学習のめあてを明確にし、わかりやすい授業に取り組むことにより、基本的な知識の理解、技能の習得は図れてきています。また、「書く活動」を様々な教科、場面で積極的に取り組むことで、特に国語の「書くこと」「記述式の問題」においては徐々にその成果が現れてきています。その一方で、算数においては知識を活用して筋道を立てて論理的に考えることや、考えたことを表現することなど、思考・表現力についてはまだ課題が残っています。

#### 【今後の方策】

- ・身につけた知識、技能を活用し、思考力を伸ばすための授業の工夫
- ・課題に対して筋道を立て論理的に考える場面を積極的に取り入れた授業改善
- ・書く力を身につけるための取り組み
- ・学習内容の定着を図るための家庭学習の充実

<国語>

- ・目的や相手に応じて話し方、聞き方を習得できる授業
- ・書く活動をより多く取り入れ、書く習慣を身につける授業
- ・読書活動や様々な文章を読む習慣を身につける授業

### <算数>

- ・身につけた知識、技能を活用することのできる発展的な授業
- ・実生活における事象との結びつきを図った授業
- ・自己の問題解決方法を思考、表現することのできる授業

## (2) 児童質問紙調査から

- ・ほとんどの児童が「学校に行くのは楽しい」と回答しており、学校生活に対して肯定的な見方をしており、良い環境で充実した学校生活が送れています。
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ている」また、「普段（月曜日～金曜日）、1日あたりにテレビを見たり、携帯電話やスマートフォンに触れたりしている時間が短い」と答えた児童の方が、比較的学力が高く、規則正しい生活を心がけ、十分な睡眠時間を確保することが学力の向上に影響をもたらすことがわかりました。「早寝、早起き、朝ご飯」の基本的な生活習慣も含め、家庭での余暇の過ごし方について考え、望ましい生活習慣を身につけさせたいと思います。
- ・「学校の宿題をしている」と回答した児童がほとんどで、家庭学習の習慣化が図られてきています。家庭学習の仕方については様々ですが、復習や予習を含めて学習に取り組むことが学力の向上に結びつくことは明らかです。今後も、家庭学習の質や量を高めながら積極的に取り組めるよう働きかけ、学習内容の定着を図ってまいります。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と、ほとんどの児童が回答しており、いじめに対して否定的な見方、考え方をしていることがわかりました。今後も学校の基本方針をもとに、いじめ根絶に向けた取り組みを行ってまいります。
- ・「自分にはよいところがある」、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」といった質問に対して肯定的な回答をしている児童が多くみられました。自己を肯定的にとらえ、様々な体験を積み重ねることにより達成感を味わうことは、学習に向かう姿勢にも変化を与え、やがては学力向上へとつながるものと考えます。今後も、学習や様々な行事を通して、充実感や達成感を味わわせ、自己肯定感や自信を高めさせてまいります。
- ・各教科の「記述式」の問題の調査結果とも関連するが、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答している児童は依然として多く見受けられます。今後も学習活動の様々な場面で書く活動を効果的に取り入れ、書くことへの抵抗感を無くし、文章表現力や書く習慣を身に付けさせていくよう努めてまいります。

## 4 まとめ

- ・児童の学力を向上させるため、上記の【今後の方策】で示した授業を意図的、計画的に行っていきます。また、学習内容の定着を図るために、家庭学習への工夫、改善を図ってまいります。
- ・規則正しい生活習慣が身に付くと、精神的にも安定し、学習面でも成果が表れるという傾向があります。学校でも生活習慣の改善を図るための指導を行っていきますが、ご家庭でも『早寝、早起き、朝ご飯』の励行とともに、お子様の生活を見直し、ご協力いただければ幸いです。
- ・児童の学力向上や適切な生活習慣の確立は、学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。